

『子ども目線（子どもの世界と大人の世界）』

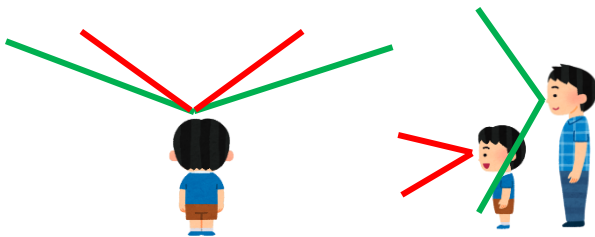
子どもが生まれてから、どのように視力が育っていくのか知っていますか？
今回はそんな子どもが見ている世界と大人が見ている世界の違いを紹介します。
子どもが見えている世界を知ると、今後の関わり方も変わってくるかもしれません。

●子どもの視力について●

生まれたばかりの赤ちゃんは、まだぼんやりとしか周りが見えません。
1歳児になると0.2、2歳では0.4~0.5程度、早いと3歳には1.0くらい見える子もいます。
平均して小学校就学頃には1.0になると言われています。
視力0.2の世界は、色と輪郭が判別できる程度、0.5程度でおおよそ5mの距離の人の顔が分かるイメージです。

●子どもの世界・大人の世界●

子育てをしていると、横から友達が来ているのに気づかないでぶつかるなんて場面を見かけます。
大人としては、「なんで気づかないの」と思う場面ですが、その理由は**子どもの視野の狭さ**も関係しています。



【大人の視野】

左右おおよそ 150° 、上下おおよそ 120°

【幼児の視野】

左右おおよそ 90° 、上下おおよそ 70°

大人は食事をしている時、横に誰が座っているのか、テーブルにどんなメニューが乗っているのかなんとなく分かりますよね？

一方子どもは上記のような視野の範囲なので、自分の目の前の物しか見えません。
熱い味噌汁が自分の横に置いてあっても見えていなかったり、幼児用の鉄棒が頭をぶつける位置にあっても見えないような視野でもあるのです。

視野の広さが違うからこそ、大人が気づく危険も子どもでは気づけないことがあるのです。

●関わり方のポイント●

具体的に話をする

「気を付けてね」と言うだけでなく「お茶こぼしてしまうから、
テーブルの奥に置こうね」など具体的に伝えていきましょう。

具体的な方が、**どこに気をつければよいのか**子どもにも伝わりやすくなります。



いかがでしたか？

私達大人が思っている以上に、子どもの世界は見えていないことがたくさんあります。

ネットで調べると、子どもの視野を体験できるキットも掲載しているので、もしご興味があればぜひ調べてみてくださいね！

(寶田)